

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 10月18日(金)

会 場： 酒屋コミュニティーセンター

参加者数：35人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>保育所の前に「いこいの森」があり、山の日会場として使用している。ここは周辺を歩く散歩道であるため整備がされており、広場も芝生化がされているが、活用に関しては上手く使用されていないのが現状である。酒屋の資源としてどのように活用するか、あるいは農村公園として活用するか。今後、どの程度の規模として活用するか。遊びの王国に関しては、市外の方が多く利用しているが、地元の人利用が少ないのが課題である。</p>	<p>アグリパーク構想については、昨年度の7月豪雨災害の復旧活動のために、一時的に繰り越しをさせてもらっていた。今年度においては、引き続き具体的な整備を行い、市民および関係団体からの意見を反映させ、今後、事業を進めていきたい。</p>	
<p>酒屋地区には、840世帯2,000人が居住している。それに対し、自治会の入会者数は350人程度である。近年、酒屋地区は家が建ち、子どもも増えているが、定住される人に対し、市側が自治会入会の声かけを積極的にして欲しい。新規定住される人に対し、自治会とのつながる働きかけを行政に行っていただきたい。</p>	<p>三次市内各地区から自治会加入率の低下の声を聞いている。三次市に限らず、全国的にも課題となっている。市としても、自治連役員の方々とも話をしていくが、すぐに特効薬は見出すことが出来ない。市の対策としては、自治会加入促進のパンフレットを作成し、転入時に配布できるように検討している。防災意識が高まっている背景から、地域のつながりや自治会の加入促進につながるよう進めていきたい。</p>	
<p>毎年、「いこいの森」を使用して山の日イベントを開催している。市全体へ広がっていき、山が持つ豊かな自然との触れ合いを他地区へも広がるようやっていく必要があると考えている。</p>	<p>6月に広島県内各地で、一斉にイベントを行っている。三次市においては、「酒屋いこいの森」を中心にイベントを開催している。主な目的は、森林の整備であり、継続的に行っている。来年度以降も引き続き開催予定である。今後は市全体へ広がるよう検討している。</p>	
<p>産業の活性化と言われているが、人間は自分が窮地に立たされないと腰を上げないものである。この問題は、三次市だけのものではなく、他の自治体や誰もが悩んでいるものである。例として、家の前に青じその葉が生えた時だれも見向きもせず捨てていたが、ある会社が発想の転換として、青じその葉を商売として売り出した結果、日本全国へ展開する会社へと成長した。誰もが思いつかないような産業を思いつくには、自分中心の考えではなく、周りも困っているからこそやろうという思いの元、生まれるものである。産業は、皆で協力相談しあうことで成功していくものであると考える。</p>		
<p>定住において、基本的に三次市を見てみると、都市圏への通勤はできないという前提で組み立てている。定住をするためには、働かなければいけない。三次市での働き口が少なく就職が難しいため、都市圏へ通わなければいけない状況である。いかにして通勤できるか検討するべきである。三次駅周辺には、都市圏への通勤に便利のため新しい住宅が数多く建っている。主たる働く人が都市圏への通勤が可能になると、必ず家族もついてくるため、地域の活性化に繋がるのではないかと考える。</p>	<p>企業誘致するだけでなく、全国的にも都市圏で働き、田舎で暮らすという流れが出てきている。都会では、2時間程度かけて通勤されている方もいるので、1時間半程度であれば十分通勤圏内であると考えている。それを踏まえ、定住のPRの方法を検討する必要もあると思う。また、尾道松江道が開通し、尾道方面へも1時間程度で通勤可能なため、それも合わせて検討していく。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 10月18日(金)

会 場： 酒屋コミュニティーセンター

参加者数：35人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>下水道について、10年前に市政懇談会で聞いた話であるが、十日市や三次町は公共下水道であり、使用量に応じた料金であるが、酒屋地区は定額である。他地区(世良, 甲山)で公共下水の合併処理の件で街中との差があり、補助を依頼するという事例があった。現在、酒屋地区においても公共下水の使用した量を払う場合と合併処理での定額ではかなりの差が生じてくる。ブローアも定期的に修理する必要がある。また、浄化槽内にあるFRP, ステンレス部分等の修理方法が分からない。修理業者はすでに決められている。修理費用は不明確であり、50~100万円程度という回答を得た。修理自体は簡単なことだが、専門知識がない方は必要以上の費用を請求された場合は、相場が分からないのではないかと思う。</p>	<p>現在、市で補助金を出しているものは浄化槽を新規設置する場合である。補助金は5人, 7人, 10人槽で金額が変更している。その後の維持管理・経費に関する市の補助は現在、行っていない。市としては、各個人に依頼していることが現状である。新たに補助制度を制定する検討は行っていない。</p>	
<p>(市の回答を受けて) 補助の検討をしていないことは把握している。例えば、10人槽の場合は10万円は高く感じ、現在は下がっているが、それは検査回数自体が減少したためであると思う。バクテリアが大便尿を処理する方法で原始的であると感じる。定期的に検査に来るという話だが、簡単に検査を済ませ帰ってしまう。容量自体を減らせばいいと思うが、すぐには難しい話である。三次市以外の話であるが、容量を減らすのにブロック等を入れる等の違反があるという噂もある。自分たちでは相場が分からないため、下水業者に言われたままの金額を提示されたら何も言えない。酒屋地区だけではなく、ほかの地区でも合併処理をしているところはあると思う。</p>	<p>浄化槽の件に関しては、酒屋地区だけでない。FRPは既存のものを容量を変更して使用することは、正式な方法とは考えられない。今すぐに、浄化槽の既存のものを変更・改造や、補助金を出すことなどは現時点では難しいため、今後の課題として受け止めさせていただきたい。</p>	
<p>災害に強いまちづくりについて、酒屋の自治連にも発電機など配備していただき感謝している。発電機及び防災の機材を三次市で蓄えているのか。</p>	<p>三次市では、本庁舎の裏手に倉庫があり、各支所にも備蓄している。発電機に関しても、支所の方に分散して保管している。この度の災害を受けて、もう少し計画的に備蓄するよう検討している。現在は、5年間程度かけて計画的に備蓄するよう考えている。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月18日(金)

会場: 酒屋コミュニティーセンター

参加者数: 35人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>酒屋地区は「遊びの王国」や「森のポッケ」などがあり、子育てがしやすい地区だとよく聞く。酒河小学校の児童数も、市内では珍しく増加傾向にある。しかし、酒屋地区は災害の件に関しては、本当に強い地域なのか。昔からの住民の住宅は丘の部分にあるが、新規定住者は、かつて田んぼだった地区(谷の部分)を埋め立てし、新しく住宅を建てている状況である。例えば、上流にはピオーネ団地に上がる道の左側には2つの堤、右側には3つの堤が山の中にある。そのような堤が今回のような台風19号や異常気象に晒された場合、決壊して谷の部分へ流れ、新規定住者の住宅エリアを押し流す恐れがある心配がある。</p>	<p>溜め池に関しては、主に農業用として使用している。農業用溜め池となると、管理者を中心に定期的な管理を依頼している。昨年7月豪雨の災害の際、三次市においても決壊した溜め池もあり、下流の地域が被害を被ることもあった。中山間直接支払制度、溜め池の支払制度があり酒屋地区においても、取り組んでいただいている状況である。その中で、溜め池など維持管理、日常の点検なども行っていただいている。草刈り等を確実にされていけば、クラックが入っていることや漏水などの状況が明確になる。そのような状況になれば、色々な改修事業もあるため、相談していただきたい。今後、農業用溜め池の届け出をしていただき、地域で管理していただきたい。三次市の溜め池は、広島県内においても4番目に多く、現在2,160箇所ある。現在は、溜め池の管理者を調査している段階であり、その中でも使用されていない溜め池が数多く存在している。今後、使用されていない溜め池について、関係者の方々と協議をしていくことを考えている。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 10月18日(金)

会 場： 酒屋コミュニティーセンター

参加者数：35人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>片丘川について、2年前に豪雨により田んぼが浸かったという報告がある。復旧作業というのは、従前の土手の高さと同じ高さで作業されるため、また同じように洪水に晒される可能性がある。新しい住宅もでき、土地開発が進むと鉄砲水が下流へ流れる現象が起きる。片丘川を全面改修しないと、豪雨に対応できる解決策に繋がらないと考えている。現況の片丘川の規模では大水を処理できない。</p>	<p>片丘川の容量について、以前より河川断面が小さい等、多くの意見をいただいている。片丘川の災害を受け、去年の市政懇談会においても同様なご意見をいただいた。大規模な宅地開発の際には、調整池を設置し、下流への影響を最小限に抑える流量調整を行っている。酒屋地区においては、大きな開発は行っていない。宅地化を進めることにより、今までよりも流出する水の量が増加すると思われる。片丘川に関しては広島県の管理であり、県と協議を重ね、安全に暮らせる環境整備に取り組んでいきたい。</p>	
<p>酒屋地区は年間100万人ほどの人が来るとのことで、以前より大幅に交通量が増加した。先日のマツダのロードスターのイベントにおいても大変な交通量であった。道を新規に作るの難しいと思うが、交通標識、白線のペイント、小学校の通学路及び横断歩道などのカラー舗装などのペイント表示をきれいに整備していただきたい。特に国道375号線へ抜ける道の一旦停止標識を見過ごすことが多く、交通事故につながる危険性がある。ほかの自治体を例に挙げると、山口県ではガードレールが黄色である。</p>	<p>先般より、広島県は歩行者が横断歩道にいる場合の一旦停止無視は、全国でワースト一位ということが問題になっている。直近の調査では、以前より改善傾向にあるということが明らかになっている。運転者のマナーの問題でもあるが、道路を管理する立場としては児童生徒の安全を守る為、必要最低限の整備は必要だと感じている。教育委員会で通学路の安全点検を実施されているため、教育委員会委員会と協議を進め、生徒の安全確保に努めていきたい。</p>	
<p>三次市の観光資源はたくさんある。今回も妖怪博物館が完成した。市外の方々は車のナビを使用して来られるが、その時期に合わせてアドバルーンを上げれば、気分的にも高まるのではないか。</p>	<p>近年、観光施設の案内看板を道路へ増やして来たが、アドバルーンについては、今まで検討したことがないため、今後の参考にさせていただきたい。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 10月18日(金)

会 場： 酒屋コミュニティーセンター

参加者数：35人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>以前は駐在所があったが、現在はなく、酒屋地区で警察を呼ぶ案件があった場合、10分程度必要になる。最近も、自動販売機荒らしの事案があった。ナフコ、郵便局付近(国道に面する部分)では、通学路に指定されており、横断歩道がないため、歩行者は渡り切るのに苦労している。信号機までとは言わないが、せめて横断歩道は重大事故を防ぐためにも必要ではないかと思う。酒屋地区は観光客の増加ということを踏まえて、駐在所や横断歩道を増やし、安心安全な酒屋地区を目指してもらいたい。また、工業団地があるため、抜け道を利用する車が増加してきているので、地域住民は非常に苦労している。併せて、時期・時間帯を調査してほしい。</p>	<p>・駐在所の件は、警察に確認し、改めて報告させていただきたい。</p> <p>・横断歩道の件について、道路管理は広島県が行っているため、県と現状を確認し、改めて回答したい。</p>	
<p>現在、三次警察署では、2年程前から駐在所のない地域には、「諸所在地連絡協議会」を立ち上げている。駐在所のない地域の住民が年に2回開催される会議に参加し、警察から信号・防犯カメラの設置状況、交通事故の状況の説明などを受けている。立ち上げの経緯としては、2年前に当時の警察署長が地域住民に周知させるべきと考え、サングリーンとCCプラザを対象に開催された。現在は目立った活動はされていないが、このような組織があることを、広く周知してほしい。</p>		
<p>市議員に聞いた話では、吉田町は、20年前から、三次よりも人口が半分であるが、GNPは三次の倍の状況である。吉田町は他自治体よりも財政が厳しい背景から、より良い町にするために、高田インターがあることにより、交通の利便性を考慮し、市議会が吉田町の土地所得税を無課税にし、今後のメリットを踏まえて企業誘致を進めた。企業誘致を進め、税金を安くし、働く場所を増やしていけば若者が残ることに繋がる。その結果、三次よりもGNPが倍になっている。三次市も吉田町を参考にすべきであり、三次市内の会社は公衆衛生の管理を市が行っているため、公衆衛生にコストがかかってしまう。三次市内へあった企業が三次へ移動しただけではGNPは上がらない。</p>	<p>現在、三次市工業団地は47社入っており、ほぼ完売状況にある。従業員数も約1,800人で操業している。三和の工業団地については、4社、従業員数が約40人である。さらに新たな産業用地として、3カ所を選定し、企業誘致に努めている。</p>	